

International Youth Conference for Peace in the Future, Hiroshima

青少年国際平和未来会議ヒロシマ2013



鯉のぼり運動 (平和公園)



ハノーバー市代表団一行



開会式



平和資料館見学



松島先生の講演



原爆ドーム前集合



食事会



琴演奏体験 (舟入高校)



書道の体験 (舟入高校)



上田流和風堂の訪問



神社参拝



神社参拝



バーベキュー (宮島大聖院)



もみじ饅頭焼き体験



ワークショップ



ワークショップ



ホームステイ先と顔合わせ



水本先生、二宮先生の講演



平和 Discussion



平和 Discussion



川村先生の講演



各国自慢料理大会



尾形教育長の挨拶



各国旗の返還



鯉のぼり授与



ヒロシマアピールの発表



平和パフォーマンスの発表 (バンコク)



2005年に始まったIYCPFは、広島市に加え、姉妹縁組を結ぶ世界の6都市を中心とした青少年の参加をえて、広島と海外都市で交互に開催されています。2013年は、8月6日から14日まで9日間、広島の大学生・高校生20名と海外6都市から21名の青少年が集いました。日本の伝統・文化の学習を通じて友情と親睦を深めながら、世界平和のために青少年は何ができるかを議論し、最終日の閉会式で“広島アピール”を発表しました（本紙に掲載）。

広島で行う平和会議としては、まず1945年の原爆被曝の実相を学ぶことから始まるのが肝要で、その上で今なお世界中で多発する戦争や紛争の要因を探り、これを防ぐための方策を考えていくべきです。今回の“広島アピール”では、世界の人々の文化や生活習慣の多様性を理解し、寛容の心をもって世界の人々に接してゆくこと、自らの周囲の同世代の人々やさらに年齢の若い世代に平和達成のための取り組みを拡げてゆくこと、などが参加者から提案されました。参加者は多くの思い出と決意を胸に抱いて各都市に帰っていきましたが、それぞれの都市において、活動を始めてくれていると思います。2015年はIYCPFの創設から10周年にあたり、被爆70周年にも相当することから、それらの記念イベントも加えてIYCPFを開催するための相談がすすんでいます。多くの協会の会員の皆さんがこの会議の今後に関心を持ち、支援していただければ有難いと考えています。

（記 井内国際事業委員長）

青少年国際平和未来会議ヒロシマアピール2013

私たち青少年国際平和未来会議2013の参加者は、共通の目的すなわち私たち青少年が、平和の達成に向けて何ができるかを話し合うために、そして異なる文化を持つ人々の間で友情の絆を深めるために広島に集まりました。

国内においても、国際間においても、文化の相違をいつも念頭におくことが重要であることを私たちは確信しています。さらに、同程度に、文化の相違に関する情報不足が、固定観念やその固定観念に由来する差別を助長し、平和を脅かす恐れがあると確信しています。

しかし、私たちは若いゆえに力がない訳ではありません。

日常生活の中で平和を創造することに貢献できる力をもっていて、この貢献は、自らを変えることから始まります。世界中における誤解や差別、強欲さを乗り越えるように努力することを含めて、私たちが取り組んでいける平和達成への貢献には、様々な手段があります。

話し合いの結果として、私たちの行動は次のことに基づくべきであると確信しています。すなわち、偏見のない態度、文化を共有し、他の文化を学ぶことによって、様々な障害を乗り越える意欲、他人とより良く交流ができるように、自らのコミュニケーション能力を磨く意欲、顔と顔を合わせた対話が何よりも重要なことであるという確信です。

結果として、私たちは以下の概念を提唱し、それらをもとにした具体的なプロジェクトの達成に向けて努力することを誓います。

- 学校や短期大学、大学など、様々な場で、また、ホームページや講座、展示会、フラッシュモブ、コンテストなど、様々な手段を用いて、私たちと同年代の若者の国際理解を育成するプロジェクトを行います。
- 自分達より若い世代が、各年齢層に相応しい形で海外の文化を学ぶことができるように、他の国の人々と出会い、コミュニケーションを図る機会を提供します。

更に、努力したこととその成果を共有し、世界を跨ぐ友情のネットワークを広げ、強化するために、私たちは、インターネットやその他のコミュニケーションの手段をなるべく効率的に活用することを怠りません。

私たちは知らないことがなお数多くあることを認識しています。そして、知識不足そのものが平和の達成を妨げることも知っています。しかし、このことと並行して、自分自身に対して、そして他人に対して、義務があることにも気付いています。それは、コミュニケーション能力や知識およびこれらの知識を分かち合い、討論し、議論する能力を高めることに努力を続けることです。

私たちは広島で生活を共にした10日間の経験から発想を得て、それぞれの国に帰ります。私たちの努力は、今始まります。

2013年8月14日
青少年国際平和未来会議ヒロシマ2013
参加者一同